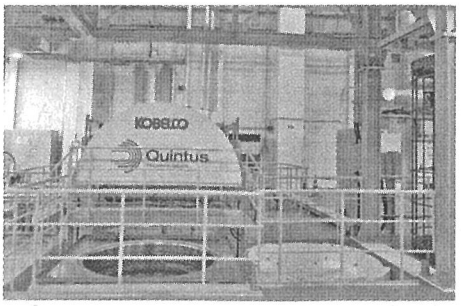
的に整理し、ポなどを解説した習用の動画で、時間の講義を通師としてのノウ取得できる。中ームページの特する。

中災防は厚生労働省の補助を受け、製造業における職長の能力向上教育カリキュラムを3月に策定。2020年度からカリキュラムの問題が続く中、オンラインでいつでも受講できる形で提供することを決めた。



加圧装置＝写真

手セラミックメの京セラへ納入発表した。20に買収したクイの同装置を国内納入したのは初

ンタスは等方圧置（IP装置）トップメーカー界2位だった神収し「1・2位が形成された。と製品力や技術いクインタスの力を神鋼とのシナジーで引き出し、法規対応やアフターサービスといった日本市場での販売基盤を整えていた。

京セラへの納入では制御システムや付帯設備、現地での工事も神鋼で実施した。こうしたシステム全体で一括提案できた点も受注につながったとみられる。

神鋼は機械事業部門でIP装置の事業を手掛けており、クインタス製品ではフレックスフォーム液圧板金プレス装置（SMF装置）でも日本市場における販売代理店として営業活動を行っている。

2020・9・30 鉄鋼

地域の力 きらり光る企業

能勢鋼材

幅広い加工でニーズ捕捉

航空機部品にも参入

⑦1

能勢鋼材は、1966年（昭41）、ステンレス流通として創業。71年には曲げ加工の子会社を設立、73年には本社工場を拡張するなど加工能力を増強してきた。93年には滋賀県彦根市に彦根工場を開設し、水プラズマ切断機を導入。以降もエアプラズマ切断機やチップソー高速切断機などユーザーニーズに合わせ、加工設備を拡充してきた。

2008年には手狭となっていた彦根工場を拡張移転し、滋賀工場を開設。最新のシャーリングや門型切断機のほか、ウォータジェット切断機を導入した。同社は設備増強というハード面だけでなく、設備を扱う技術の向上にも力を入れている。

14年にはウォータジェット切断機の加工液噴射システムで特許を取得。より効率的な生産体制でウォータジェットの切断品を供給している。

同社が統括会社となり、航空機部品の供給ネットワーク、関西サプライチェーンを設立。近畿を中心とした14の協力会社が、マシニング、旋盤、フライス、表面処理、熱処理などの加工を施し航空機メーカーに装備品を納入している。航空機分野への参入についても「関西サプライチェーンでの取り組みを評価して頂いたと思っている。責任を感じると同時に使命を与えられたと考えており、微力ながら日本のものづくりに貢献していきたい」。現在の売上高は60億円。「航空機分野を伸ばすとともに、加工のグレードを上げ、100億円の売上高を目指したい」としている。

能勢社長は、父親で創業者の能勢俊吾氏が急逝した能勢孝一社長は「中小企業を対象とした展示会にウォータジェットの切断品を出展した際に『炭素繊維も切断できるのでは』と声をかけていただき、そこから航空機分野に広がっていった」と話す。

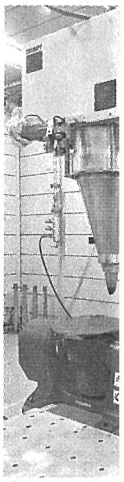
17年度に地域未来牽引企業に認定されたことについて者などから問い合わせがあり、アルミを多用することを受け、04年に34歳で社長に就任。就任2年後の06年に経営理念「共創共栄」を策定した。「就任当時私は若く、先代のような人を引っ張っていくようなカリスマ性もなかった。ただ先代の身近にいて会社への思いというのは肌身に染みて分かっていた。その思いを社内外に理解しやすい言葉にしたのが『共創共栄』だ」とし、「20世紀は共存共栄でよかったが、変化の激しい21世紀では、社員やお客さまをはじめとしたあらゆるステークスホルダーと共に時代を創り、ともに栄え幸せになり社会に貢献していくことが、事業の究極の目的だと考えている」

（橋川　渉）

経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」のうち、鉄鋼・非鉄金属関連の企業を紹介します。

能勢社長

主力加工拠点の滋賀工場


独自開発のノズルを取り付けた溶接ロボット㊤、アルミ加工のサンプル

会社データ

▽創業＝1966年6月
▽本社＝大阪市旭区高殿1―2―25
▽社長＝能勢孝一氏
▽資本金＝3千万円
▽売上高＝60億円
▽従業員＝80人
▽主力事業＝ステンレスおよびチタン、アルミ、伸銅品、高合金などの材料販売と加工

新「折板屋根システム」発売

天井を同時施工、機能・意匠性が向上

元旦ビューティ工業

元旦ビューティ工業は、日、展と同時上からンチン天井を工で「元旦板屋根ステムを新た販売すと発表た。高度で高密な折屋根がらにグードアップし、天井

贈呈式で、左から川善政池田泉州銀執行役員、山根中鋼業社長、小島産技術短大学長